

## 古きよき時代を垣間見て……カザフスタン

### 紹介者



**森田 嘉彦氏**  
国際協力銀行 副総裁



**重久 吉弘氏**  
日揮 取締役会長・CEO



### 次回は

**大平 晃氏**  
(三菱ガス化学 取締役会長)  
にご登場いただきます。

“カザフスタン”と聞いて、その正確な位置と国家像を語る日本人は極めて少ないであろう。現在の中央アジア諸国の起源は、16世紀のティムール王朝の崩壊に遡り、各民族の言語（トルコ語系）と宗教（イスラム教）を中核として成立したのが、現在の“カザフ（冒険者）”の“スタン（国）”である。

中央アジアの歴史は、北部の広大な草原の遊牧民族（カザフ、キルギス）と南部のオアシスの農耕民族（ウズベク、トルクメン、タジク）を舞台に繰り広げられた。地理的には、東に中国、北にロシア、南にトルクメニスタン、ウズベキスタン、キルギスタンと国境を接し、まさに Europe（ロシア）と Asia（中国）にまたがっている。その国土面積は日本の約7倍（世界9位）で、民族はカザフ族が近年50%、ロシア・スラブ系民族が35%、その他約100民族により構成されている。文化の源流は、イスラム教文化（カザフ族）とキリスト教文化（スラブ民族）である。

近年では、石油、天然ガスなどの豊富なエネルギー資源、鉱物資源に恵まれた資源大国であり、対岸のアゼルバイジャン、トルクメニスタンなどのカスピ海周辺諸国で繰り広げられている、欧米諸国・中・日による資

源争奪戦争“ニューグレートゲーム”の舞台の中心となっている。8月の末に、資源外交の一環として小泉首相（当時）が日本の総理として初めてこの国を訪問したことは、記憶に新しいところである。

今年の5月、このカザフスタンを訪問した。弊社がカズムナイガス（国営石油ガス公社）向けに納入した石油精製プラントの完成式典に出席するためである。私にとって、今回で同国への訪問は3度目となるが、最初の訪問は、同国がソ連から独立し、国家として動き出した1993年、World Economic Forum 派遣団の一員として同国入りしたときだ。当時、まだ若かったナザルバイエフ大統領に謁見し、この国の発展への息吹、鼓動のようなものを強く感じたことがその後の弊社営業活動にもつながっている。

完成式典の翌日、ホテル近くを流れるウラル川沿いの散策を楽しんだ。暖かく、穏やかな日和の中、悠久と流れるウラル川のほとりで、一緒に釣りをしている老人と子供の姿を目にした。そのシーンは私の子供時代によく見かけた、日本の田舎の古きよき時代を彷彿とさせる長閑な風景であり、私の心の中で、もうひとつのカザフスタンとして今も強く印象に残っている。